

地方創生事業好事例紹介

じゃぱにうむ

じゃぱにうむレビュー 第16回

印刷媒体にこだわらない提案で新しい価値を
提供するメディア・インテグレーター

株式会社 三和印刷社

株式会社 三和印刷社

所在地：山口県下関市長府扇町9番1号

代表者：代表取締役 平野 貴昭

従業員数：6名（2024年5月現在）

URL：https://sanwa-printing.jp/index.html

ホームページの「弊社の特徴」というページを開くと、いきなり「印刷にこだわらない提案をします」と掲げている印刷会社がある。山口県下関市を拠点に活動する株式会社三和印刷社だ。同社は、スマホのアプリと印刷物との連携を武器に新たな市場への挑戦を続けている。

デジタル化の進展に伴うペーパーレス化、ネット印刷の拡大などにより激化する同業他社との価格競争を回避するべく、代表取締役の平野貴昭氏は印刷物だけに頼らないビジネスを模索してきた。そんな中、平野社長が注目したのが、スマホなどのモバイルに搭載できるアプリだった。中でも、AR（拡張現実）に注目し、ARアプリの開発とそれに連動するカタログやパンフレットなどの印刷物の製作を進めた。例えば、スマホをカタログに掲載されている商品画像にかざすと動画でその商品の使い方を見たり音声を聞くことが可能である。

強力なマーケティングツール！ ARと印刷物との連携

この取り組みは、従来の印刷物に動画や音声を連動させ、その商品の訴求効果を飛躍的に高めることに成功した。更にパンフレットなどを閲覧した消費者の行動履歴データの蓄積とそのデータ解析により、消費者ニーズを把握。情報を効果的、効率的に発信するという強力なマーケティングツールとして活用されている。

このARを活用した事例として公益財団法人やまぐち産業振興財団が主管する「チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業」に採択された事例を紹介しよう。これまで、学校案内のパンフレットは2次元の表現しか出来なかったが、パンフレットに印刷されたARを起動させるマーカースマホやタブレットをかざすと学校紹介や在校生が受験生にアドバイスを送る動画を見ることが出来る。また360度全天球型カメラを使って撮影された通常の写真では見られない学校内の施設や風景を見渡すことが出来る「360°ビュー」という仕掛けも用意されている。受験生がスマホに登録する情報からアクセス解析を行い、受験生の興味ある学科、部活などを分析、学校側にフィードバックすることで、経営戦略、次年度以降の募集に役立てることが出来るマーケティングツールとして、まさに『印刷にこだわらない提案』をしている。このツールは学校のみならず、あらゆる業種に水平展開が可能である。



「チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業」に採択された事例



印刷にこだわらない提案で地域の魅力を発信

2017年（平成29年）にスタートした下関市立歴史博物館公式アプリ『ワクワクれきはく』もARを活用した事例のひとつとして紹介したい。印刷物による博物館の最新情報はもとより、館内の展示物に設置されたマーカーにスマホをかざすと展示物の解説が表示される機能や、企画展や特別展に会場



下関市立歴史博物館公式アプリ『ワクワクれきはく』

とスタンプがたまるデジタルスタンプラリーでプレゼントと交換出来るなど、来場により特典を得られる機能がアプリに搭載されている。また、インバウンド来館者に楽しんでもらうために、ARを使った展示内容の説明文は5カ国語（日本語、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語）に対応している。他にも日清講和記念館内の「講和の間」や高杉晋作の墓などは、まるでその場にいるかのように「360°ビュー」で見渡すことが出来るため、臨場感を与えてくれる。これらの多彩な機能は、来館者の満足度の向上およびアプリをダウンロードした潜在的来館者への来館を促すもので、高い集客効果により地域の活性化に貢献する取り組みと言える。博物館には毎月アクセス解析が報告されており、継続的に改善が図られている。

更に、江戸時代後期の城下町長府を描いたスマホアプリ付き古地図『復刻版・幕末古地図 弘化3年屋敷割図 城下町長府』は、アプリをダウンロードしたスマホを古地図にかざすと幕末維新ゆかりの史跡や現在も残る練堀の位置なども表示され道案内もしてくれる。そして、古地図の中に現在の施設名・地名が表示され、詳細情報を見ることが出来るのだ。

和紙に印刷された古地図には余計な情報は加えられておらず、オリジナルの資料として楽しむこともできる。この事例も地域の魅力を効果的に伝えることで認知度向上・観光の誘致につながる取り組みと言える。

ARアプリで市民を巻き込む行政の情報発信を支援

下関市民に必要な情報が手に入るモバイルアプリ「しもまちアプリ」の開発も「印刷にこだわらない提案」のひとつだ。「しもまちアプリ」は、地域ご



モバイルアプリケーション『しもまちアプリ』

とのごみの日カレンダー、防災情報や道路の異状情報、しもまち便利帳など、多くの情報をプッシュ配信しており、市民一人ひとりが繋がりを感じることで出来るアプリで、ARを活用し気軽に情報収集ができる機能を満載した優れたものである。このアプリにはスタンプラリー機能もあり、ARで読み取りながらスタンプが貯まると、例えば「天然むつれ島ひじき」や「R191号線沿い、海辺のカフェのコーヒー券」など地元の商品がもらえるが、これらの商品を地域住民と一緒に準備することで地域活性化に繋がっているようだ。

印刷物とARアプリなどのITとの連携を図り、それにマーケティング機能を組み合わせたサービスは、印刷会社が取り組むべき差別化戦略であり、企画提案型ビジネスへの転換に資する先進的な取り組みと言える。このような提案手法は今後の印刷業界の新たな潮流になるのではないかと期待したい。